

東京バッハ合唱団 月報

[第 537 号] 2007 年 3 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.537
March 2007

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

2007 年、創立 45 周年の演奏計画

大村 恵美子

3月21日の第100回定期演奏会が間近なので、合唱団月報も、ついついその《マタイ受難曲》に大きく気をとられたような新年の幕開けとなりました。例年ならば、新しい1年間の合唱団の計画が紹介されるところです。

一つには、創立45周年記念公演となる、第101回定期演奏会の会場の確保について、いくぶんの躊躇があったせいもあります。これまで、ほとんど続けて(1977年の第40回定期から昨年5月の第99回定期まで)使わせていただいていた石橋メモリアルホールが、改装の期間で使用できなくなったこと、また団員数の増加で、多少広めのホールを考えなければならないのではないか、という懸念もあったことなどで、結果的には、ごく最近になって、第101回は、11月17日(土) 東銀座の中央区立中央会館ホールと決まりました。

第100回定期のあとの、今年中の計画は、次のようになりました。

6月3日(日) 開演 16:00、松山市民会館大ホール
《マタイ受難曲》BWV244(ドイツ語)に有志参加。

第4回松山・フライブルク姉妹都市交流演奏会(松山バッハ合唱団創立30周年記念) 指揮: ハンス・ミヒャエル・ポイアーレ(フライブルクバッハ合唱団音楽監督)

7月28日(土) 世田谷中央教会特別演奏会
“ソプラノとヴァイオリンと合唱、バッハ名曲集(仮題)

- 1) カンタータ第52番《悪しきこの世よ われなれを頼まじ》BWV52(ソプラノ独唱カンタータ)
- 2) モテット第3番《イエス 喜び》BWV227
- 3) ヴァイオリン独奏(未定)
- 4) カンタータ第84番《われ足れり わが幸に》BWV84(ソプラノ独唱カンタータ)

ソプラノ: 光野孝子

ヴァイオリン: 丹沢広樹

ピアノ: 若土規子

合唱: 東京バッハ合唱団

指揮: 大村恵美子(モテット)、橋本眞行(カンタータ2曲)

8月4日(土) 野尻湖神山教会特別演奏会
“ソプラノとヴァイオリンと合唱、バッハ名曲集(仮題)

曲目・奏者とも、7月28日と同じ。指揮は、大村恵美子(カンタータ2曲)、橋本眞行(モテット)に交替。

11月17日(土)、中央会館ホール(東銀座)

第101回定期演奏会

- 1) モテット第3番《イエス 喜び》BWV227
- 2) カンタータ第65番《もろびと シバより来たり》BWV65
- 3) モテット第1番《主にむかいて歌え 新たな歌を》BWV225

テノール: 鳥海 寮

バス: 佐々木直樹

オーケストラ: 東京カンタータ室内管弦楽団

オルガン: 草間美也子

指揮: 橋本眞行(BWV227)、大村恵美子(BWV65, BWV225)

そのほかに、

6月30日(土) 団員総会(世田谷中央教会)

7月2日(月) 創立45周年記念懇親会(目白聖公会)
を予定しています。

第100回定期《マタイ受難曲》の出演者全員・全聴衆に呼びかけて、感想・記録などをお寄せいただき、『記念文集』を編んで、できれば、この懇親会の場でお渡しするようにしたいと考えています。

《マタイ受難曲》で燃え尽きてしまうことなく、団員のすべての方が、また新たな心意気で、多彩な催しに取り掛かってくださるよう、というのが目下の私の一番のねがいです。

定演後、直ちに6月予定の《マタイ》(ドイツ語。松山に参加できない方も、ぜひ原語演奏の響きを経験してください)と、その後のモテット、カンタータの練習が始まります。

皆様のヴァイタリティに期待しています。

後援会員・団友の皆さま

(マタイ受難曲)ご招待について

重ねてご案内してきましたとおり、3月21日は多数のご来場が予想され、座席の確保を念入りに準備しております。

つきましては、後援会員・団友の皆さまには、あらかじめ、ご来聴予定の有・無をお伺いしてから「招待券」をお送りしてまいりました。ご来聴ご希望で、まだ「招待券」をお持ちでない方は、専用の返信ハガキ、または直接、電話・ファックス・メール等でお申し付けください。折り返しお送りいたします。

当日の混乱を避けるため、ご請求はお早めにお済ませくださいますよう、ご協力をお願いします。

「招待券」のご請求とお問合せ = 合唱団事務局

電話 03-3290-5731, FAX : 03-3290-5732

MAIL : bachchortokyo@aol.com

日本語！で、マタイ受難曲

神野 理枝

1月6日、今年最初の練習は、大村恵美子先生と9名の東京バッハ合唱団の方々とともに始まりました。

3月21日の東京バッハ合唱団「第100回定期演奏会《マタイ受難曲》」に、私たち松山バッハ合唱団のメンバーも参加することになり、そのご指導のため、はるばる東京から松山に来て下さったのです。

大村先生のご指導は、橋本さんと対照的で、初めのうちは少しとまどいました。しかし、1曲ごとの、たとえ話や時にユーモアをも交えながらのお話はとても分かりやすく、受難の物語のイメージをよりはっきりと持てるようになったと思います。

翌7日の練習後には、歓迎会と新年会を兼ねて、楽しい食事会となりました。気さくな方たちばかりで、つつられて、二次会までお供させていただきました。3月の再会がとても楽しみです。

．．．

ふだん、私たちはドイツ語で歌っていますが、今回は日本語です。6月には、フライブルクバッハ合唱団とのドイツ語での合同演奏会も控えており、昨年12月あたりからやっと日本語による練習が本格化したばかり。

母国語なのに、歌となると日本語になりきれない（音の羅列のみで、単語として今ひとつ伝えきれない）もどかしさに悩まされています。これは、ある程度慣れの問題なので、練習しかないようです。

しかし、母国語だからこそ、“歌詞の意味がストレートに心に響く”のです。自然に感情が湧き上がってきます。2000年も昔の出来事であるにもかかわらず、今まさに目の前で繰り広げられているように感じるのです。

実は、私とバッハの合唱曲との出会いは、日本語によるもの（「松山バッハ合唱団第1回演奏会」1978年6月25日）でした（ ）。

その後の「第2回演奏会」（同年12月25日）からは歌う側になりましたが、しばらくは日本語で歌っていました。

日本語とドイツ語、両方の演奏会を経験してきていますので、バッハを日本語で歌うことにさほど違和感を感じることはありません。

私にとっては、約20年ぶりの日本語での演奏会です。しかも、20年前には夢でしかなかった『マタイ受難曲』。

3月21日の本番では、歌詞の意味をじっくり味わい、感じながら、歌いたいと思っています。そして6月3日には、ドイツ語の響きに浸りたいと……。

（松山バッハ合唱団 副団長）

）松山番町教会、BWV64《見よかくも大いなるみ父の愛》、BWV227 モテット第3番《イエスよわが喜び》。

（以上、右の川合さんの文章中の とも、松山バッハ合唱団HPを参照しました）



1月6日、道後温泉にて。左端は筆者の川合さん。

松山でのバッハ歌い初め

川合 満里子

1月6日の朝、羽田からは大村先生ご夫妻、B山下さん、T川戸さん、島津さん、A康さん、平田さん、S菅原（昌子）さん、川合の9名が搭乗しました。

久々の大雨に飛行機は大揺れで、2年ぶりで陸から離れた私は緊張しっぱなし。松山空港で、出迎えに来られた橋本先生と団員の女性お2人を見つけたときに、ようやくホッと一息つけました。橋本先生は毎週、東京・松山を何十年も往復していらっしゃる。懇親会で松山バッハの皆さんが「それにもかかわらず、橋本先生は1度も練習を休んだことがないし、優秀なソリストやオーケストラメンバーをいつの間にか見つけてくる。そのパワーは本当にすごいです」と、口々に言っていました。まったく同感です。

空港では、S宮田さんも熊本から合流して、全員お迎えの車でホテルまで送っていただき、その晩6時から9時まで大村先生の指導で練習、翌7日も2時から6時まで、2日で熱心に《マタイ》の全曲を通しました。

歴史ある松山教会の集会場（園児室）は熱気にあふれ、松山バッハの皆さんは、日本語がしっかり歌いこまれていて、びっくりしました。また、こちらでは男性の若手が揃っていたり、東京バッハの最年長T川戸さんが衰えない美声を響かせていたり、お互い良い刺激になったのでは？

私は今回、他の合唱団で歌う初めての経験でしたが、自然と中にとけ込め、とても楽しく歌えました。これは松山バッハの皆さんが本当にあたたかく迎えてくださったことはもちろん、大村先生が以前から月報を送られたり、こちらの演奏会に参加させていただいたり（ ）と交流を深め、また、橋本先生が両合唱団を指導されていることのお蔭で、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

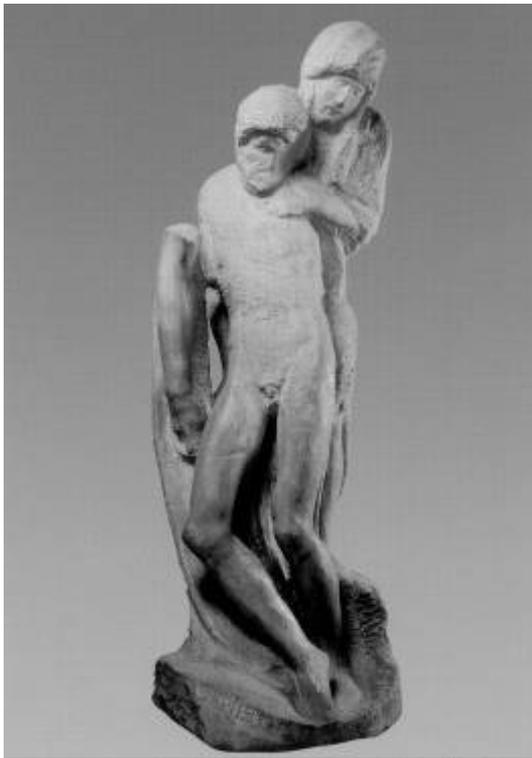
今年のお正月は、充実したレッスンと美しい松山市を体験できて、最高のスタートとなりました。旅行の手配にご苦労の多かった山下ご夫妻（奥様は、飛行機の予約

が取れなくて断念されました。道中できばきと旅の手助けをしてくれた平田さん、お世話になりました。

[番外編] 松山の皆さんに、とても楽しいフレンチのレストラン「アミティエ」(友情・親愛の意味)に連れて行っていただきました。天才シェフ、フィリップ氏のソース類の美味なこと！翌日のランチにも通ってしまいました。そのときの“ゆずビール”のまたまた美味なこと！ここからは《コーヒー・カンタータ》の節で：ゆずビール、ゆずビール！ゆずビールがあれば、わたしはいつもシアワセ！。(団員：ソプラノ)

)平和への祈りコンサート：第3回松山・フライブルク姉妹都市交流演奏会《口短調ミサ曲》(2002年5月25日・広島市世界平和記念聖堂，同26日・松山市民会館大ホール)に有志参加。

尋ね人・・・この人をご存じありませんか？



《ロンダニーニのピエタ》、ミラノ・スフォルツァ城美術館

ミラノにあるミケランジェロのこの彫刻は、私の大好きなものなので、最近ミラノに行って来られた白木博也様をお願いして、絵はがきを買ってきていただきました。

私はこれまでに、この作品について通り一遍の解説しか見たことがありません。

どなたか、すぐれた評伝のご紹介か、あるいはご自身自身のエッセー、論考などを、お寄せいただけませんか。

《マタイ受難曲》演奏をひかえたこの機会に、ぜひ思いを深めたく、皆様におねがいします。

(大村恵美子)

第 100 回定期の公開リハーサルを兼ねた
特別演奏会のご案内

J.S.バッハ

合唱とエヴァンゲリスト、聖書朗読による

マタイ受難曲 (抜粋)

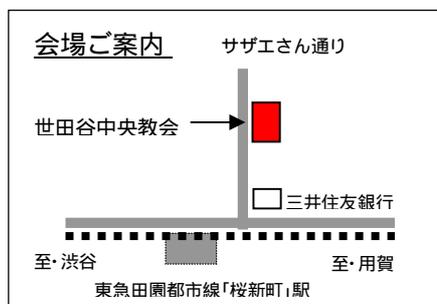
日本語でバッハを歌います。
お気軽にお立ち寄りください。
入場無料

ご近所の方は、ぜひお誘いあわせで・・・

日時 2007年3月3日(土) 開演・午後6時30分
会場 世田谷中央教会 (終演・午後8時予定)
(東急田園都市線「桜新町」駅下車, サザエさん通り)

演奏

独唱 = 鳥海 寮 (エヴァンゲリスト・テノール)
合唱 = 東京バッハ合唱団、東京バッハ児童合唱団
ピアノ = 金澤亜希子、指揮 = 大村恵美子



主催/問い合わせ 東京バッハ合唱団
TEL : 03-3290-5731 FAX : 03-3290-5732
Mail : bachchortokyo@aol.com

柳元 宏史

連載 : 全部おすすめ 50 曲選!! <その3>

カンタータ第 131 番

《深みより 主よ われはなれを呼ぶ》

個人的なことだが、昨年の暮れ、私の心は荒れていた。投げやりな気持ちが自分を空しくしていた。受け容れがたいこの魂の荒廃に、そっと寄り添い、静かに励ましをあたえ、支えてくれたのがこの 131 番である。すっかり弱っているときには、激励されるよりも、ただ共感し、静かに耳を傾けてくれる存在がどんなにか嬉しいことが。私にとって 131 番はそんな存在になってくれた。

この曲は、バッハが 20 代前半に作曲したものである。若くしてどうしてこんなにも深く、慰めに満ちた旋律を、聖書の言葉に添えることができたのだろうか。

彼はルター派の信仰のもとで生まれ、つつましくも幸せな音楽一家の一員として比類なき音楽的才能が与えられた少年だった。そんな幸せな少年に、弱冠 9 歳で両親の死という不幸が襲う。突然の暗闇を経験し、早くから音楽活動で生きねばならなかったバッハ。人生の問題をかかえ、不条理に悩みながら生きたバッハの生涯を知るとき、この 131 番の慰めと励ましの旋律が、いっそう私に説得力をもって迫ってきた。

カンタータ第 131 番は、聖書の詩編 130 篇をベースに作曲されている。とくに、第 2 曲と第 4 曲の、独唱アリアとコラール旋律による二重唱は味わい深い(第 2 曲バスとソプラノ、第 4 曲テノールとアルト)。それぞれが違う歌詞を並行して歌いながらも、独唱の歌う詩編の祈りに、天使たちの声のようなコラールが、キリストの救いをささやき、孤独に歌う詩人に静かに寄り添っている。どうして! と叫びたくなるときに、そっと大きなみ手が寄り添うような雰囲気である。

この曲の中核は、第 3 曲の清らかな合唱であろう。深みに沈む詩人が、わが心はみ言葉をのぞむと、神にひとり静かに向かう姿が、私たち一人ひとりの姿と重ねられ、洗練された合唱となって歌われる。

最後に(第 5 曲)大合唱がイスラエル主を仰げと呼びかける。励ましを得た詩人の信仰が、彼のうちだけに完結せず、イスラエルの民全体に慈しみの主を仰ぐ信仰の呼びかけとなって、この曲を結ぶ。それはとりもなおさず、この私に、そしてこの 3 月、《マタイ受難曲》を歌おうとしている私たちに向けられた呼びかけのようでもある。

キリスト教信仰の深みに触れるこの 131 番を味わえば、きっと《マタイ受難曲》に臨む姿勢も、いっそう深まるのではないだろうか。(団員 : バス)

CD [第 15 巻] に収録。T 佐々木正利、B 淵脇和範、東京カンタータ室内管弦楽団、大村恵美子指揮/訳詞、1979 年録音(第 45 回定演)。演奏楽譜 : 38